

くすのき



岡本小学校 学校だより
No.5
令和2年6月29日
『信頼と共生のワンチーム』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

学校にみんなが集う良さ

「今日のカレーうどん、最高においしかった！
3杯もおかわりしちゃった！」

給食開始2日めの1年生の教室で聞かれた言葉です。大きな食缶を見ると、見事空っぽになっていました。子どもたちの気持ちの良い食べっぷりは、そのまま子どもたちの勢いの良さにつながっています。



6月15日から一斉登校が始まりました。久しぶりに全員が顔を合わせることができ、各学級では教科の授業を進めつつ、学級づくりや学習のルールづくりにも丁寧に取り組んでいます。

低学年のある学級で…

学校教育目標である「もくひょうにむかい、ねばりづよくとりくむ子」の第一歩をふみだした場面に出会いました。

C1「先生、一つの当番活動に何人はいますか？」

T「〇〇さんの言っていること、どういうことかわかる？ □□さん、わかった？ 自分のことばで言ってみて。」

C2「〇〇さんが言ったことは、たとえば、黒板けしをやる人が何人いるかを決めないと…。2年生のときには決めていました。」

T「わかった？（みんながうなずく）人数問題ね。今回は、人数を決めません。とにかくクラスでできそうな仕事を自分で決めて、一週間やってみよう。やっけていてもし問題が起きたら、その時みんな話合っけて決めていこう。」

その後子どもたちは、これまでの経験を生かし、自分だったらこんな仕事をしたいな、こんな仕事だったらできそう、こんな仕事をしてみたいというそれぞれの思いから、自分の仕事を見つけました。自分で選ぶ、自分で決めるとい

う経験は、この年代の子どもたちには特に重要な意味をもちます。自分で決めたことは、責任をもって主体的に取り組むことができるからです。

高学年のある学級で…

学校教育目標である『ともにまなぼう』の第一歩をふみだした場面に出会いました。

道徳の教材文を読み、自分の考えを書く時間がちょうど終わったところでした。担任が子どもたちに問いかけます。

「書けた人？」（挙手したのはクラスの半数以下）すると、担任は子どもたちの机の間を回り始めました。そして、皆に聞こえるように

「いいよ！ 書けているよ」
「まだ途中でいいよ。自分の考えをもっているね」

「自信をもって！」
そして、もう一度子どもたちに問いかけます。

「書けた人？」
ほぼ全員の子の手が挙がりました。

その後子どもたちは安心して、自分の考えを発表しあいました。自分とは異なる友達の意見に耳を傾け、いろいろな視点で物事を考えることができました。

「よい授業がよい学級集団をつくる」とは昔からよく言われていることです。今年度岡本小学校では、さらに踏み込んで「学級を機能させることでさらに教育的効果を高めよう」という取り組みを、校内研究を通して行っています。

「学級を機能させる」ためには、教師と子どもとの信頼関係づくりを基盤に、子どもと子どもとのつながりをつくること、失敗や「わからない」を受け入れられる集団をつくる必要があります。友達と対話を重ねながら課題を解決したり自分の考えが深まったり…こういう経験ができることこそが、学校にみんなが集う良さです。今、そうした取り組みが始まりました。

《岡本小学校ホームページ更新情報》 ぜひご覧ください！！

☆「給食室より」「PTAより」「保健室より」等、新しいリンク追加

☆現時点での年間計画（案）をアップしました。

☆いろいろな内容が随時更新されています。今後もお楽しみに!!



分散登校の風景1～避難訓練～

「三密」回避優先か「避難訓練」か?…迷いましたが、避難訓練を行う決断をしました。どんな状況であっても、子どもたちの安全を担保する必要があると考えたからです。

当日は、「三密」を回避しながらの訓練となりましたが、どの子も真剣に取り組みました。A・Bグループそれぞれが訓練を行うため、教職員にとっては2回の訓練となりましたが、1回目の課題を修正しながら、学童さんにもご参加していただき、「命を守るための行動」を全員で理解することができました。今回は「火元を知って避難すること」「煙から身を守ること」の大切さについて、指導しました。



さつまいも植え ～PTA活動～

1年生がさつまいもの苗を植えました。教務の沖津先生をゲストティーチャーに迎え、なぜななめに植えると良いのか等を学びました。「おおきなあれ」と声をかけながら、植える子どもたち…秋の収穫が楽しみです。

PTA本部のみなさんやスクールコーディネーターが、子どもたちに体験活動の場を提供してくださいました。※HPに写真掲載中

お知らせ～新しい教職員紹介～

◆補習等のための指導員

磯崎 理知先生 神戸 泉先生

※7月から1学期の間、ご指導いただきます。

◆スクール・サポート・スタッフ

椎野 昌子さん

※7月から毎週火曜日にご勤務いただきます。

分散登校の風景2

この写真は、何だと思いませんか？これは、4年生の教室で見つけた「掲示板」です。昔、駅にあった「伝言板」を思い出します。

Bグループのみんなへ
もう少しで分散登校が終わるね。みんなと一緒に勉強したり、遊んだりするのが楽しみです。

手づくりビデオレターで交流している学年もありました。心と心をつなぐ素敵なアイディアです。



Aグループのみんなへ
お手紙を書いてくれてありがとう。早く分散登校が終わって、みんなで勉強したり、遊んだりしようね！楽しみにしているよ！

お知らせ～運動会について～

◆今年度は例年通りの運動会を行うことは中止とします。皆様の健康を守るとともに、教育課程を優先するという理由からです。ねらいや形態をかえて、平日開催いたします。

わたしのひとりごと…

「子どもの心を整えるには、親の「ありがとう」が一番大切」ということを聞いたことがあります。「ありがとう」という言葉には、あなたがいてよかった」というメッセージがこめられています。教師である私たちは、職業柄「できたこと」と「できていないこと」に着目して評価をしています。学校では、子どもたちは否応なしに「点検」される存在となりがちです。であるならば、少なくとも家庭では、そうでない空間（「点検」をされない空間）が必要です。

「できないこと」があっても「そのうちできるようになるさ」くらいのおおらかな気持ちをもち、「ありがとう」と感謝する子育てを、互いに心がけていきたいですね。

「子どもたちよ、毎日学校に来てくれて、ありがとうございます！校長先生はうれしいです。」

6月8日ぶりの一斉登校が始まった早朝7時頃学校へ着くと、もうすでにほとんどの職員が出勤し、子どもたちを迎える準備をしていました。どの教室の黒板にも、久しぶりの再会を心待ちにする学級担任のあたたかいメッセージが添えられてありました。私は、この日が迎えられたことが本当にうれしく、気づくと「ありがとう」という言葉を、何度も何度も心の中でつぶやいていました。

「ありがとう」は「有難う」と表します。「ありがとう」は、今こうして「有ることが難しい」ときに使う言葉だからこそ、「有難う」なのでしょう。子どもたちが学校へ登校するとう当たり前の事実が、じつはとてつもなく素晴らしいことなのだ改めて気づかされました。

さて、1年生にとっては、特にこの6月の一か月間は大きな成長がみられます。重いランドセルを背負って長い道のりを登下校することから始まり、国語や算数の学習、給食など、毎日初めてのことばかりです。今ではどうでしょう。できるようになったことが、じつにたくさんあるのではないのでしょうか。